



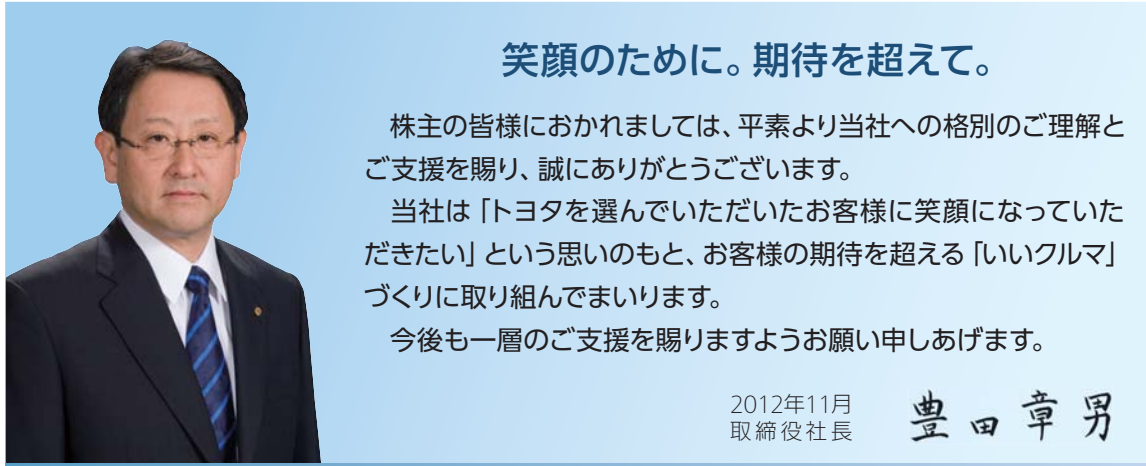
第109期報告書

# TOYOTAレポート

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで



# TOYOTA



### 笑顔のために。期待を超えて。

株主の皆様におかれましては、平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社は「トヨタを選んでいただいたお客様に笑顔になっていたきたい」という思いのもと、お客様の期待を超える「いいクルマ」づくりに取り組んでまいります。

今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年11月  
取締役社長

豊田 章男

### 業績の概況

第109期前半(2012年4月1日から9月30日まで)につきましては、前年同期に東日本大震災による供給不足もあり、連結販売台数は前年同期に比べて149万台の増加となる451万台となりました。

収益の状況につきましては、為替が円高に推移した影響があったものの、販売台数の増加に加え、グループ一丸となった原価改善の取り組みにより、当前半期の連結営業利益は7,263億円増益の6,937億円となり、連結純利益は4,666億円増益の5,482億円となりました。

お客様のご愛顧と当社を支えていただいた株主の皆様にご心より感謝申し上げます。

中間配当につきましては、前年同期に比べ10円増配し、1株につき30円とさせていただきました。

今後も当社を取り巻く経営環境は、世界景気のさらなる減速懸念や日本経済に深刻な影響

を与えている円高など、大変厳しい状況が続くと思われま。

このような状況の中、日本のモノづくりを守り抜くためには、モノづくりの現場をはじめ、あらゆる職場で現場力に一段と磨きをかけ、たゆまぬ人材育成の取り組みを積み重ねていくことが必要です。

お客様の期待を超えて、お客様に笑顔になっていただける、いいクルマをつくり、それを通じて、日本のモノづくり、人づくりを守り、いい町・いい社会づくりのお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

その結果として、当社の経営基盤が強化され、持続的な成長が実現できるものと考えております。従業員とともに心をつなげて、後戻りすることなく前進してまいり所存でございます。株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Q1 トヨタの成長に向けた中長期的な取り組みは？

**A1 昨年3月に発表したトヨタグローバルビジョンに基づく、「もっといいクルマ」を軸とした、ぶれない経営こそが持続的成長を実現するものと考え、「クルマづくり」における改革を推進しています。**

具体的な取り組みとしては、まず企業風土の改革をすべく、グローバルビジョンの実現に向けた意識改革や他社との協業などを通じたベンチャー精神の復活を目指します。また、開発・設計・調達においては、基本性能と商品力向上を実現する、開発・デザインの一体改革や、非常時の部品調達リスクを軽減するためのサプライチェーンの強化、そして生産においては「モノづくり構造改革」を基本に生産技術

や生産体制の改革を行います。さらに販売においては、成長著しい新興国への地域ニーズに見合うクルマの投入で、全世界の販売における新興国の比率を現在の4割から5割とすることを目指します。これらの取り組みを、現地生産・調達の拡大などで円高抵抗力を高めることなどによる強い収益基盤の早期実現と一体で推進していくことで、持続的成長への道筋をつけられると考えています。

### Q2 東北におけるトヨタのモノづくりとは？

**A2 世界No.1の魅力あるコンパクト車の提供を目指します。**

東北を「中部」「九州」に次ぐ、第3の国内生産拠点へ

- 東北・・・コンパクト車の企画・開発から生産
- 中部・・・新技術・新工法などのイノベーション技術の開発拠点
- 九州・・・ミディアム系やレクサス系のクルマづくりの拠点



当社は東北を「中部」「九州」に次ぐ、第3の国内生産拠点と位置付け、コンパクト車の企画・開発から生産まで一貫して行う体制を確立します。7月、関東自動車工業(株)、セントラル自動車(株)、トヨタ自動車東北(株)の3社を統合し、新たに「トヨタ自動車東日本株式会社」を設立しました。同社は、旧3社の革新的な技術力を活かし、グローバルなコンパクト車づくりに参画します。アクアを生産する岩手工場をはじめとする東北の生産現場には、地域のサポートや、地域に根づいた優秀な人材、多彩な基盤技術など、東北の強みが活かされており、コンパクト車づくりの実力強化が図れます。

## BMWグループとの協力関係を強化

当社とBMWグループは、3月より次世代バッテリーの分野で共同研究を進めていますが、6月より新たに「FCシステムの共同開発」「スポーツカーの共同開発」「電動化に関する協業」「軽量化技術の共同研究開発」の4つのテーマで、長期的な戦略的協業関係構築を目指していく覚書に調印しました。



## カローラアクシオ・フィールダーをフルモデルチェンジ

5月11日よりフルモデルチェンジした「カローラアクシオ」「カローラフィールダー」を発売しました。小回りがきくコンパクトなボディの中に、大人4人がゆったりと過ごせる快適な室内空間と安心して運転できる広々とした視界を確保しました。



カローラアクシオ

## ポルテ フルモデルチェンジ、新型車スペイドを発売

7月23日より発売しました「ポルテ」「スペイド」は、大開口ワイヤレス電動スライドドアを特長とするコンパクト2BOXです。シンプルなデザインの中にも「ポルテ」はリラックス感を、「スペイド」はシャープな造形で存在感を主張したクルマとしました。



スペイド

## オーリスをフルモデルチェンジ

8月20日よりフルモデルチェンジした「オーリス」を発売しました。欧州各国で走行テストを繰り返して鍛え上げた走行性能で、際立つ個性と操る楽しさを進化させています。



オーリス

## グローバル累計生産2億台を達成

当社創業75周年の節目にあたる本年の6月生産分をもって、グローバルでの累計生産台数2億台を達成しました。1935年8月に当社の前身である(株)豊田自動織機製作所(現: (株)豊田自動織機)自動車部において、1号車となるG1型トラックを生産して以来、76年11カ月での達成となります。

## 環境技術開発の最新の取り組みについて

当社の環境技術に関する最新の開発状況と、2015年までの展開計画を公表しました。12kwhの小容量電池ながら走行距離100km、最高速度125km/hを達成した高性能コンパクト電気自動車(EV)「eQ」の自治体向け導入や、新型ハイブリッド車(HV)21モデルの2015年末までの投入などを計画しています。

## シリーズ トヨタのルーツ 第4回 10万km連続高速走行テストを完走した「三代目コロナ」

コロナは昭和32年(1957年)から販売されていましたが、初代、二代目とも性能で他車に見劣りし販売は低迷していました。そこで当社は外観、エンジン、内部機構を一新し、課題であった振動騒音や馬力を大きく改善するとともに、開発から生

産まで確実な品質保証体制を確立しました。こうして三代目コロナは昭和39年(1964年)に誕生、当時開通もない名神高速道路で行った10万km連続高速走行テストでその優れた高速性能と耐久性を実証し、多くのお客様に支持されました。



三代目コロナ

## 新興国での販売戦略

当社はグローバルビジョンで掲げた新興国の販売比率目標5割を達成すべく、新興国のニーズへの適応と100%現地化を推進し、その国に深く根ざした事業を行います。具体的な活動として、グローバルな生産・供給を担う新興国における生産能力増強を進めており、来年には国内生産台数と同レベルの約310万台まで拡大する見込みです。また、新興国で築き上げたグローバル供給体制をさらに強化すべく、現地や域内での調達率100%を目指し、域内展開、域外輸出のさらなる推進に不可欠な原価競争力を確保します。さらに、成長著しい新興国の自動車市場での販売拡大に取り組むべく、今後拡大が見込まれるコンパクトカー市場に重点を置き、商品群を強化する「新コンパクトカー戦略」を推進していきます。



インドのエティオス・ローンチイベント(上)とブラジルTDBソロカバ工場起工式(下)

## 各市場での取り組み



### ・グローバルでIMVが累計販売500万台を達成

IMV(Innovative International Multi-purpose Vehicle)のグローバルでの累計販売が、本年3月末で500万台に達しました。IMVはピックアップトラック、ミニバン、SUVで構成され、世界中のお客様に、より魅力的な商品を迅速に提供するための現地生産専用モデルであり、現在では11の国・地域で生産、世界約170カ国で販売しています。



### ・インドで「エティオス」シリーズが累計販売10万台を突破

2010年12月に「エティオス」セダンを発売、2011年6月にはハッチバックの「エティオス リーバ」を発売し、販売開始から約1年5カ月で10万台を達成しました。また、インドにおける生産能力も、現在の21万台/年から来年には31万台/年まで拡大します。

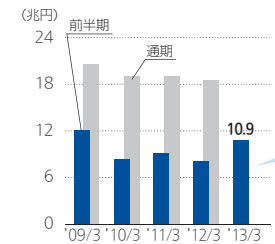


### ・ブラジルで「エティオス」を投入

9月28日よりブラジルで「エティオス」(ハッチバック、セダン)の販売を開始しました。ブラジルでは6割以上を占めるコンパクトカー市場に当社が初投入した「エティオス」は、今後のブラジルでの取り組みにおいて重要な役割を担います。販売目標は年間7万台、エントリー価格は約117万円とし、今後さらなる販売の拡大を目指します。

## 連結業績の推移

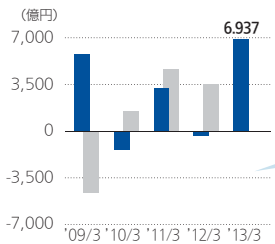
### 売上高



#### POINT

前年同期に東日本大震災による供給不足があったため、当前半期は連結販売台数が大幅に増加し、売上高も大幅な増収となりました。

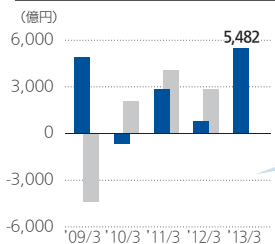
### 営業損益



#### POINT

為替の円高による影響があったものの、すべての地域で販売台数が増加したことや、全社を挙げて取り組んできた収益改善活動の成果により、営業利益は前年同期に比べて大幅な増益となりました。

### 純損益

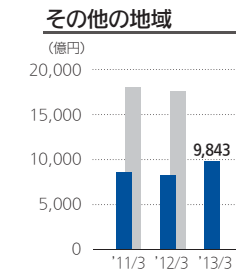
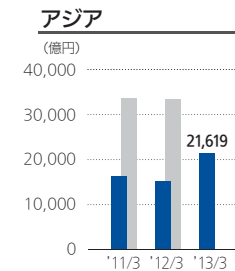
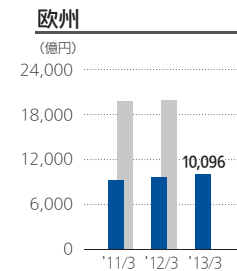
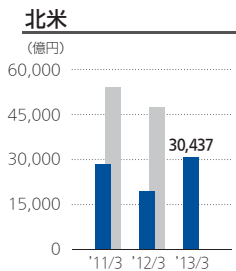
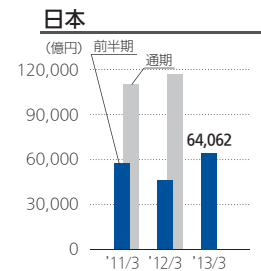


#### POINT

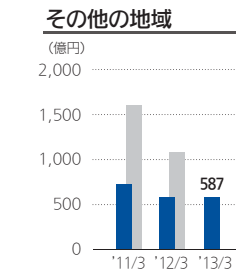
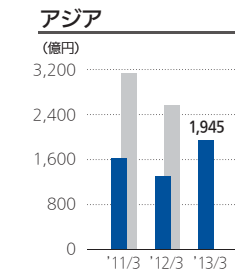
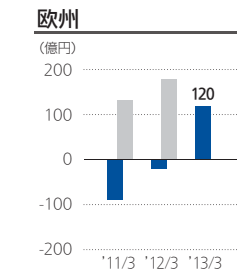
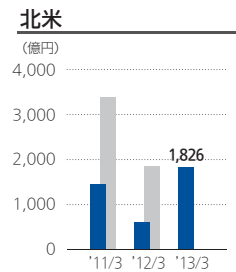
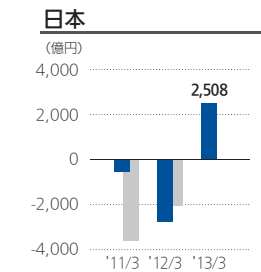
営業損益とともに、国内を中心とする持分法適用会社の業績が好調に推移したことにより、増益となりました。

## 所在地別セグメント

### 一売上高



### 一営業損益



#### 所在地別売上高

すべての地域で、販売台数が増加したことにより、前年同期に比べて増収となりました。

#### 所在地別営業損益

日本では、生産・販売台数の増加や原価改善の努力などにより、大幅な増益となりました。また北米、欧州、アジア、その他の地域でも、生産・販売台数の増加などにより、増益となりました。

### 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

	'12 / 9末	'12 / 3末
資産合計	30,100,682	30,650,965
負債合計	18,835,408	19,584,487
非支配持分	526,379	516,217
資本合計	10,738,895	10,550,261

### 連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	'12 / 4-9	'11 / 4-9
売上高	10,908,354	8,015,922
営業損益	693,750	△ 32,573
税金等調整前純損益	794,537	△ 1,403
純損益	548,269	81,581

### 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	'12 / 4-9	'11 / 4-9
現金及び現金同等物期首残高	1,679,200	2,080,709
営業活動	1,239,547	489,358
投資活動	△ 1,361,118	△ 408,361
財務活動	168,371	△ 271,231
為替変動の影響	△ 60,578	△ 134,471
現金及び現金同等物第2四半期末残高	1,665,422	1,756,004

### 単独損益計算書 (要旨)

(単位:億円)

	'12 / 4-9	'11 / 4-9
売上高	48,792	33,466
営業損益	677	△ 3,223
経常損益	4,055	△ 756
純損益	3,168	497

## 株式状況 (2012年9月30日現在)

株主数 664,659名

発行済株式総数 3,447,997,492株

### 大株主(上位10名) (千株)

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	349,590
株式会社豊田自動織機	218,515
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	194,117
日本生命保険相互会社	129,553
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	118,726
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジタリ レシート ホルダーズ	85,845
資産管理サービス信託銀行株式会社	85,289
三井住友海上火災保険株式会社	66,063
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT TREATY CLIENTS 株式会社デンソー	63,163
	58,903

### 所有者別分布状況 (%)

	金融機関・証券会社	外国法人等	その他の法人	個人・その他 (含む自己株式)
'11/3末	33.7	25.6	18.0	22.7
'12/3末	33.1	26.3	18.1	22.5
'12/9末	33.0	26.6	17.8	22.6

(注) 上記のほか、当社が所有している自己株式281,192千株があります。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

配当金支払株主  
確定日 期末配当:3月31日  
中間配当:9月30日

上場証券取引所 (国内)東京・名古屋・大阪・福岡・札幌  
(海外)ニューヨーク・ロンドン

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

(同連絡先) (〒137-8081)  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話(0120)232-711(通話料無料)

### 表紙コンセプト

緑の樹木はトヨタグローバルビジョンと、それを支える「クルマづくり」をイメージしています。

私たちの全ての企業活動に、感謝の気持ちと姿勢を持って取り組むことで、お客様、そして地域の皆様の「笑顔」という果実を実らせていきたいと考えています。

**トヨタ自動車株式会社**

<http://www.toyota.co.jp>

